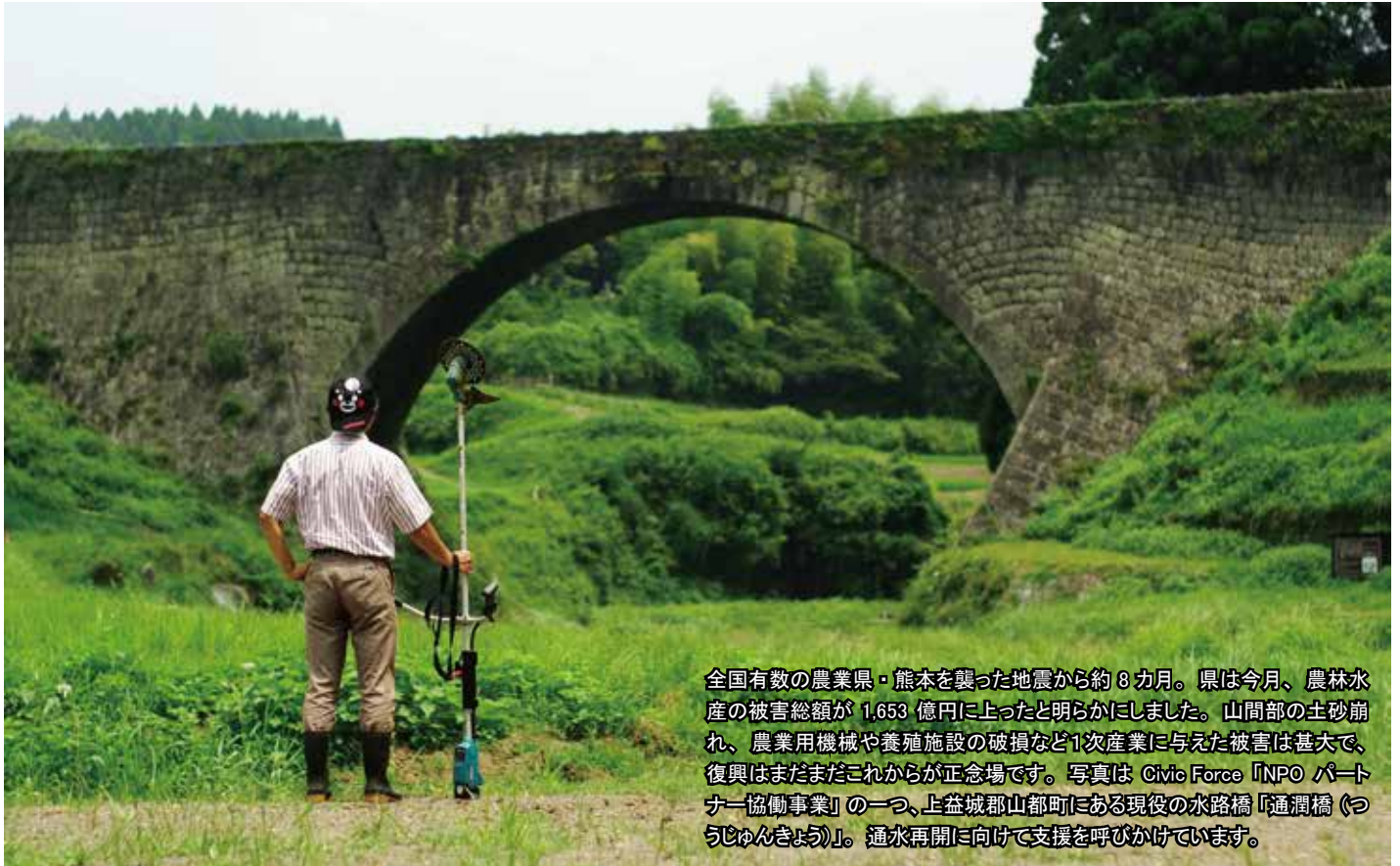




CIVIC FORCE

NEWS LETTER Vol.10

ニュースレター (Dec, 2016)



全国有数の農業県・熊本を襲った地震から約8カ月。県は今月、農林水産の被害総額が1,653億円に上ったと明らかにしました。山間部の土砂崩れ、農業用機械や養殖施設の破損など1次産業に与えた被害は甚大で、復興はまだまだこれからが正念場です。写真は Civic Force「NPO パートナー協働事業」の一つ、上益城郡山都町にある現役の水路橋「通潤橋(つうじゅんきょう)」。通水再開に向けて支援を呼びかけています。

Contents

P2 被災地を支援する

- 【熊本地震】
- ・「NPO パートナー協働事業」モニタリングを実施
- ・新規プロジェクトがスタート
- ・ご寄付のお礼とご報告

P4 緊急即応体制を創る

- ・中野中学校2年生が東京事務所を訪問
 - ・財務諸表を公表
- ほか

発行日：2016年12月
 発行：公益社団法人 Civic Force
 〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷 2-41-12
 富ヶ谷小川ビル2階
 TEL：03-5790-9366
 e-mail：info@civic-force.org
 URL：http://www.civic-force.org

熊本地震後初の年の瀬を迎えて

4月の地震発生から8カ月以上が経ち、熊本では震災後、初めての「年の瀬」を迎えました。震度7の地震を2度観測し、その後の度重なる余震の影響で甚大な被害を受けた熊本県では、「災害関連死」を含め160人以上が亡くなりました。今回の地震は「家屋の倒壊」の被害が最も多く、17万8000件以上に上ると言われています。11月14日までに16市町村4,303戸の応急仮設住宅が完成(内閣府)しましたが、住宅再建のめどが立たず、将来の生活再建に不安を抱える被災者は大勢います。

地震の被害を受けた人々は今、どんな日々を送り、復旧・復興はどこまで進んだのでしょうか。町内の住宅の9割以上が被害を受けた益城町、地理的要因から一時孤立状態に陥った西原村、地域のシンボルであった阿蘇大橋の崩落など土砂崩れの被害が甚大な南阿蘇村・・・多くの住民が避難を強いられた各被災地では、復旧・復興に向けてまだまだ課題が山積みです。今月のニュースレターでは、Civic Forceの「パートナー協働事業」を通じて見えてきた被災地の課題や、復旧・復興に向けて立ち上がった人々の活動についてお伝えします。

Civic Forceでは今月中旬、2016年度の決算報告を公表しました。個人・団体等多くの皆様のご寄付によって支えられている私たちの活動が、熊本の被災地でしっかり役に立つことができるよう、引き続き地域の人々の主体的な動きをサポートしていきます。

被災地 を 支援する

2011年3月11日の東日本大震災や2016年4月に発生した熊本地震など、日本各地の災害における Civic Force の緊急支援活動についてお知らせします。

熊本地震

「NPO パートナー協働事業」モニタリングを実施

熊本地震の被害を受けた地域の復旧・復興をサポートするため、Civic Force は2016年6月から「NPO パートナー協働事業」を実施しています。11月までに3団体とのプロジェクトを実施。12月12-13日には外部専門家によるモニタリング（事業視察）を行い、プロジェクトの成果やインパクト、課題などについて確認しました。

まちづくり

被災地 NGO 協働センター



熊本地震で甚大な被害を受けた西原村（阿蘇郡）で、西原村災害ボランティアセンターの運営支援を続けてきた「被災地 NGO 協働センター」。田畑の修復や被災者の方へのマッサージ・足湯サービスを行うボランティア派遣の活動を続け、現在は、西原村内外の支援団体が集まる「西原村 reborn ネットワーク」や、村民の自発的な活動を支える「わかば meeting」などをサポートしています。

神戸で生まれた当団体は、阪神・淡路大震災以降各地で実施してきた緊急支援や復興まちづくりの経験、幅広いネットワークを生かして、新しい地域づくりのための勉強会や座談会を開催。“暮らし”を取り戻し、新たな地域づくりをどう進めていくか、共に悩みながら地域の人々の主体的な復興を後押ししています。

女性・子ども

熊本子ども・女性支援ネット



地震の影響で不安を抱える子どもや親を支えようと、県内の複数のグループによって結成された「熊本子ども・女性支援ネット」。月に1回、子育て中の母親支援や心のケアを専門とする団体などが集まる「連絡会」を開催し、それぞれの活動内容や課題を共有し、各団体の底上げを目指しています。また、これまで体系化されていなかった県内で活動する NPO の状況を調査・整理して、データベースを作成しました。

トラウマケアの実践的勉強会「ハグプロジェクト」や、被災した子どもたちが自然のなかで学び合う「森の教室プロジェクト」も実施し、熊本での辛い体験を乗り越えようとする人々を支えています。

まちづくり

通潤橋応援プロジェクト



上益城郡山都町にある日本最大級の石造のアーチ橋「通潤橋」（重要文化財）の修復と町の復旧・復興を目指して立ち上がった「通潤橋応援プロジェクト」では、6月から「お田植祭」や「山都 de 呑みフェス」、「稲刈り会」などを実施し、被災状況を広く知ってもらうための PR を続けてきました。また、通潤橋周辺の草刈りや清掃などを担う援農ボランティアの活動も行いました。

彼らの活動を通じて、通潤橋の被害が広く伝えられるとともに、地域の結束力が高まり、町の教育委員会に通潤橋修復のための基金が設立されました。そしてこの度、文部科学省による支援も決定し町教育委員会は2018年度末までに復旧工事を終え、2019年4月の通水再開を目指すとして発表しました。

新規プロジェクトがスタート

「NPO パートナー協働事業」では新しいプロジェクトを開始します。

NEW

社会的保育士派遣プロジェクト



熊本子ども・女性支援ネット2

熊本県内の子ども・女性支援団体のネットワーク体制をつくりあげてきた「熊本子ども女性支援ネット」は、さらなる連携強化を目指したシンポジウムを2017年3月までに開催する予定です。

また、熊本地震によって母子を守る体制の脆弱さが浮き彫りになったのを受け、被災した地域の保育士を他地域のベテラン保育士などがサポートする「社会的保育士派遣プロジェクト」を開始します。日本全国で保育士不足や保育園の質改善などが叫ばれる中、Civic Force は熊本地震を機に始まったこの事業を通じて、保育園や保育士の社会的役割の大きさを伝えていくとともに、子どもや保育士が安心して支援を受けられる仕組みづくりを後押ししていきます。

NEW

“ポッチャ”で目指す共生社会



Arts and Sports for Everyone (ASE)

知的障がい者の社会支援を行う「スペシャルオリンピックス日本・熊本」のメンバーらによって設立された ASE は、発災直後から被災地へ支援物資などを届ける活動を続け、現在、ユニバーサルスポーツ「ポッチャ」を使って仮設住宅住民の孤立化防止に向けてサポートしています。

パートナー協働事業では、2017年1月から1年間、これらの活動を支援するとともに、熊本地震で露呈した障がい者に対する理解不足の課題を解決するため、仮設住宅住民と特別支援学校との交流プログラムや、障がい者団体間の連携強化のためのスポーツフォーラムを開催します。

熊本地震 ご寄付のお礼とご報告

2016年4月14日の熊本地震発生後、Civic Force はパートナー団体とともに緊急支援チームを結成し、行方不明者の捜索を実施。同時に、支援物資の調達・配布のほか、益城町内の2カ所にエマージェンシーテントを設置して、最大約50世帯200人が生活するテント村を運営。6月からはユニットハウス80棟を設置し被災した方々の生活空間や炊き出しなどを行う支援団体の受け皿として、10月末まで活動しました。現在は、NPO パートナーと協働し、復興支援活動を継続して実施しています。

これらの活動は、すべて皆様の温かいご寄付によって支えられています。発災後から11月末までに集まった金額は、1億1,556万2,744円です。心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。引き続き皆様のご関心をお寄せいただきますよう、お願い申し上げます。

【熊本地震支援へのご寄付（指定寄付）はこちらから】

■銀行から
銀行名：三井住友銀行 青山支店 普通
口座番号：7027403
口座名：公益社団法人 Civic Force
(シャ) シビックフォース

■ゆうちょから
(通信欄に「熊本地震支援」とご記入ください)
口座番号：00140-6-361805
口座名：公益社団法人 Civic Force

緊急 即応体制 を創る

大規模災害時の緊急即応体制を整えるためのさまざまな取り組みを行っています。メディア掲載やご協力いただいている皆様の関連情報もお知らせします。



緊急即
応体制

中野中学校 2 年生が 東京事務所を訪問

東京都中野区立中野中学校の 2 年生 5 人が、11 月 18 日、Civic Force の東京事務所を訪れました。総合的な学習の一環で、社会貢献活動に携わる団体に活動内容や特徴を聞き、社会の課題や自分たちにできることを考えるのが目的です。

東日本大震災や熊本地震での緊急支援活動、公益を担う民間組織の役割などについて説明し、中学生たちのさまざまな質問に応えました。中学生は「普段深く考える機会の少ない災害や防災について意識するきっかけになった」などと感想を語り、後日、お礼の手紙を送ってくれました。



緊急即
応体制

1 日 1 回 1 クリックするだけ

1 日 1 回 1 クリックするだけで社会貢献につながります。

■「gooddo (グッドウ)」
<http://bit.ly/17Xr7N3>

■PSC クリック募金
・東北支援
<http://www.psc-inc.co.jp/clickdonation/index.html>
・熊本支援
<http://www.psc-inc.co.jp/clickdonation/kumamoto.html>

お知らせ

財務諸表を公表

2016 年度（2015 年 9 月～2016 年 8 月）の財務諸表情報（事業報告書、財務諸表一式）を公表しました。Civic Force の財務諸表は、公益法人会計基準に基づき作成されています。

緊急即
応体制

1 日 33 円から できることがあります

次の大規模災害に向け、平時から備えておくために、皆様の力が必要です。マンスリーサポーターとして、毎月定額（1,000 円単位）をご寄付いただく形で、大規模災害にともに備えてください。

■銀行：三井住友銀行 青山支店 普通 6953964

■ゆうちょ：00140-6-361805

（上記いずれも口座名義は「コウエキシャダンホウジン シックフォース」です）

■クレジットカード：HP「オンライン募金」をクリックしてください。

https://bokinchan2.com/civicforce/donation/bokin/page1.php?bokin_type=donation

※マンスリー・レポートおよびニュースレターのバックナンバーは、

<http://civic-force.org/news/monthly/> からご覧いただけます。

